



北海道稚内養護学校
学 校 便 り
令和6年3月8日発行
第5号
発行者 岩佐 延寿

ICT の活用で目指すもの

今から5年ほど前、文科省からGIGAスクール構想という構想が出され、全国の子どもたちに向けて、一人一台の端末をはじめ、ネットワーク環境を含めた整備が進められてきました。当初は、2019年度から5年間かけて順次ハード面を整備する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校の臨時休校が広がるなど、オンラインを活用した授業や学習への必要性が高まったことから、端末導入のスケジュールが大幅に前倒しされることになりました。その結果、2021年3月末には全国ほとんどの小中学校で端末の配備が完了し、本校も同様に小中学部へ一人一台の端末が配備されています。高等部においては学年進行でBYOD方式（生徒自身や家庭で保有する端末を学校へ持参）での端末整備が令和6年度に完了予定です。

さて、ICT環境が整いつつある学校ですが、端末を使うことだけが目的ではありません。ICT機器を活用することにより、もたらされる学習効果や期待される使い方について、本校の教職員も研修を重ね、学習場面のICT機器の利用は、コロナ禍前と比べて格段に増えてきました。

少しだけご紹介しますと、タブレット端末で検索して目的のものを調べることをはじめ、画像やイラストからイメージを捉えたり、写真を撮って観察記録として利用したりするなどがあります。その他に、選択肢を設けた問題などは多くの学習場面で見られ、児童生徒の実態に応じ難易度を変えて出題されています。また、適切な考えや気持ちを言葉やイラストで選択できるようにし、回答や表現することにも使われています。他には、文字を覚えるなぞり書きへの利用や、声の大きさを視覚的に表示させ、客観的に捉えやすくするなどの使い方もありました。これらはほんの一例ですが、必ずしもすべての児童生徒が同じアプリを必要としているは訳ではありません。それぞれの実態やニーズに合わせた使い方ができるのが、ICT機器を活用した学習のメリットです。

他の活用では、毎年行われている沖縄県立八重山特別支援学校とオンラインでつないだ交流があります。時間と距離の壁を越えた交流は、ICT活用の大きなメリットです。北海道とは異なる環境や風習を知り、みんなで驚きや発見を共有したり、稚内のことを協力して伝えたりするなど、多様な他者を尊重することはもちろん、児童生徒同士の関わり合う有意義な学習機会としてもICT機器の活用は欠かせません。

今後ますます多様な活用が見込まれますが、大切なのは、児童生徒それぞれに合わせた活用から資質・能力を育成することや創造性を育むことです。そして将来の自立や社会参加に向けて、役立てていけるような活用を目指して工夫をしていきたいと思っています。

（文責：教頭 林 和憲）



寄宿舎の活動の様子



寄宿舎での生活

寄宿舎では、小学校から高等部までの12名の児童が、自主的に部屋の掃除や洗濯などの日常生活の仕事をこなし、また楽しく自由な時間を過ごしています。その中で地域住民との交流や楽しみにしている行事もたくさんあります。

一学期、4月には歓迎会が開催されました。令和5年度の新入寮生が1名、みんなで寄宿舎を共にする新しい仲間を歓迎しました。7月は「はまなす寮祭」が行われ、手作りの巨大スマートボールや釣りゲームなどが行われ、盛り上がりました。また、うちわ作りのコーナーも用意されており、みなさんシールを貼ったり絵を描いたり、自分だけのオリジナルうちわを制作しました。

二学期、8月には地域住民とともに海岸線でのごみ拾いが行われました。砂浜に打ち上げられたプラスチックやペットボトルなどを、みんなで協力してごみ袋いっぱいになりました。ごみ拾いの後にみんなで飲んだ冷たいお茶はとてもおいしかったです。11月は、心待ちにしていたウィンターフェスティバルが開催されました。昨年同様に、ライオンズクラブのメンバーとの交流があり、一人ひとりに本のプレゼントもありました。寄宿舎生の皆さんは早速、休憩時間に自分の部屋で新しい本を読み、満足そうに笑顔を見せていました。夕食はライオンズクラブで作ってくれたカレーライス、豚汁、からあげが振舞われました。どれも絶品で「おかわり」の声が食堂にこだましていました。

三学期もまだこれからお楽しみ会やお別れ会など、様々な行事が控えています。一年の締めくくりとして、寄宿舎での生活をじっくり楽しんで、素敵な思い出をさらに増やしてほしいと願っています。

（文責：教諭 増田 朗久）

高等部職場実習の総括

高等部では、7月と10月に福祉施設で職場実習を行いました。感染症が懸念されていましたが、徹底した対策のもと、全学年、予定通り滞りなく行えたことに安心しています。

1年生は初めての実習で緊張や不安があるなかで、働く経験を通して、将来への意識を高めることができました。2年生は昨年の経験を生かし、「報告・連絡・相談」など働くために必要な力を向上させることができました。3年生は、卒業後の利用を視野に入れた前提実習となり、今までの経験を生かし、自分の課題と向き合いながら、果敢に取り組み、一回り成長した姿を見ることができました。

最後になりますが、実習で得た成果を自信につなげ、実習で見つけた課題と向き合い、今後の学校生活で更なる成長につなげていきたいと思っています。今後も保護者の皆様の支えのもと、生徒の将来について一緒に考えていければと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

（文責：教諭 小島 くるみ）

